



加地薬局かわら版

2012年12月



予防接種について

今年も残りわずかとなりました。何かと忙しい時期ですが、体調を崩すことなく過ごしたいですね。今回はこの時期に知って頂きたい予防接種についてお知らせします。



インフルエンザワクチンについて

インフルエンザは普通の風邪と異なり、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛といった全身の症状が強く、あわせて普通の風邪と同様ののどの痛み、鼻汁などの呼吸器症状も見られます。

さらに気管支炎や肺炎などを併発して重症化する事があるのも特徴です。インフルエンザワクチンの接種は、インフルエンザによる重篤な合併症を予防し、健康被害を最小限にとどめる事ができます。

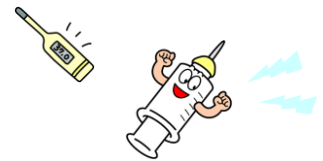
◎ワクチン接種の対象となる方

<定期接種>

65歳以上の方、および60～65歳未満で基礎疾患(心臓・腎臓・呼吸器疾患など)のある方に接種できます。市町村によっては、公費負担があります。

<任意接種>

インフルエンザの発症と重症化を防ぎたい方すべてが任意接種の対象です。任意接種の場合、全額自己負担となり、金額は医療機関により異なります。



インフルエンザウイルスは、毎年のように変異しながら流行を繰り返しています。

これに対応するために、**原則的に予防接種は毎年必要です**。流行期である初冬から春先に備えて、遅くとも12月中旬までにワクチン接種を済ませておくとい良いでしょう。またワクチンの予防効果は、接種後2週間からはじまり5ヵ月間は持続するといわれています。

肺炎球菌ワクチンについて

高齢者では、高熱や咳・膿性の痰・呼吸困難といった肺炎の典型的な症状が出にくいいため、早期発見しにくく、重症化しやすいのが特徴です。加齢に伴って免疫機能が低下し、気管支の構造も変化するため細菌性の肺炎にかかりやすくなるといわれています。

◎ワクチン接種が推奨されている方

- 1) 65歳以上の高齢者で、肺炎球菌ワクチン接種を受けたかどうかははっきりしない方
- 2) 2～64歳、下記の慢性疾患やリスクを有する方
 - ・慢性心不全・慢性呼吸器疾患・糖尿病・アルコール中毒・慢性肝疾患・髄液漏
- 3) 脾臓を摘出した方、脾臓機能不全の方
- 4) 老人ホームや長期療養施設などの入居者
- 5) 免疫力が低下している方



現在、わが国で成人に接種できるワクチンは、肺炎球菌感染症の約80%を予防できるとされています。肺炎球菌ワクチンを接種してから抗体ができるまでは平均で3週間ほどかかり、1回の接種で5年以上免疫が持続します。

肺炎球菌による感染症の予防のために、高齢者や慢性呼吸器疾患の患者に対して、肺炎球菌ワクチンを接種する場合は、保険が適用されず全額自己負担となります。

かかりつけの医療機関で接種について相談してみてください。また、**肺炎の予防や重症化を防ぐためには、手洗いやうがい、規則正しい生活・禁煙・誤嚥予防・口の中を清潔に保つ・基礎疾患の治療なども重要です**。

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンは、不活化ワクチンなので、間隔を1週間あけると接種可能です。かかりつけ医と相談し、体調の良い時に接種するようにしましょう。

